

モニターの

# 注目

今月は、6月にモニター研修で訪れた白石島と高島ではた織体験や懇談を通し、島の人たちとの交流を深めた齋藤岳土さんが、改めて感じた笠岡諸島のすばらしさを、笠岡市のまちづくりに活かすよう提言されます。

## 笠岡諸島のすばらしさを見習おう！

市政モニターの研修視察として先日、白石島の小学校跡ではた織を体験させていただきました。正直、はた織と言われてもピンときませんでした。が、実際にやってみると思いのほか楽しかったです。目の前のグラウンドで栽培し収穫された綿を手でつむぎ、柿渋染めされてできた糸を使わせていただきました。再生された歴史ある織機に向かい、手で横糸を通し、足を踏み替えトントンとするという作業から美しい布が織りあがっていく様に、なんとも言えない達成感を覚え、暑さも忘れて

夢中になりました。ご指導いただいた公民館のはた織グループの皆さま、本当にありがとうございました。もうございまして。島を理解するために

## 島を理解するために

モニター研修では、仕事やレジャーとしてではない笠岡諸島を体験させていただくことができました。その中で感じ、心に残ったことからレポートさせていただきます。

各島で温かく迎えていただき、楽しい時間を過ごさせてください。海や島の美しさ、のんびりと、しかし充実した気持ちで過ごせる時間、

人の温かさ。こんな体験をさせていただけたいのは、単に笠岡諸島がすばらしいというだけでなく、島に暮らす人たち、そのすばらしさを維持する努力をされているからこそです。例えば、島では小学生も地域の担い手としてがんばっています。そういったすばらしい活動は笠岡市全体に広めていくよう、小中学生はみんな笠岡諸島の一島一島を訪れ、島の皆さんと交流することを教育委員会でも取り組まれてはいかがでしょうか。

## 島のあるべき姿

笠岡諸島では特に高齢化が進み、いわば笠岡市の10年後を先取りした人口構造と言えます。この地域でどうやったら、高齢者を始め住民全体が尊厳ある人間らしい暮らしをし、町並みや山野が荒れることなく持続してゆくことが可能となるのか。これができれば笠岡市の将来は明るいと思えます。

都市計画マスタープランや第五次振興計画の策定によって、笠岡市全体の取り組みの

ガイドラインはできましたが、まずは笠岡諸島のそれぞれの島について、医療、保健、教育、暮らしの買い物、娯楽、収入を得る方法、また島外との交通手段といった島民一人ひとりの24時間365日、その10年なり一生涯を検証し、島内での人・財・物の還流と、島外との人・財・物の収支バランスはどうあるべきか。

例えば島の人口は何人が適切であるか。どういった産業構造が望ましいか。医療の担い手の確保はどうすべきか。詳しく考え、実行してみることに笠岡市は注力すべきではないかと考えます。これには水道や排水、電気や石油の供給・消費、二酸化炭素収支、エネルギーバランス、開発と保全などの、人間だけではなく人間を取り巻く環境も含まれていなければなりません。

また特に交通手段については、島民にとっては民業であることよりも、公共交通機関であることこそが重要であることをよく認識し、笠岡市としても申し添えていただきます。そればならないと考えます。そしてこの試みの結果が夢のあるものであるならば、たとえ費用がかかろうとも、笠岡市全体がそれに向かって準備できるものと考えます。

## 我がまちを愛する人へ

最後に、本来は市民全員が笠岡諸島をはじめ、笠岡市に詳しくあるべきだと思えます。笠岡市の明るい未来のため、そして協働のまちづくりを進めてゆくためには、何よりも自分たちの「まち」をよく知ることが必要です。



このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についての質問・提言」などがあれば併せてどうぞ。

お便り…〒七一四一八六〇一 笠岡市中央町一一一

企画政策課モニター係

TEL 082110 FAX 0822280